

キーワード： みんなで守ろう、みんなを守ろう「ネットから身を守るための猪小っ子の約束」

I 研究について

1 情報モラルに関する学校の課題

本校では、携帯電話等の所持率はそれほど高くはないが、ゲーム機等で日常的に友達とネットゲームでつながっており、小さなトラブルも発生している。

また、家庭での約束も含め利用上の約束や注意点をしっかり決められていないことや、夜遅くまで使用していることにより、生活のリズムが崩れてしまい、学習に集中できない児童が見られる。

そこで、校内のICT機器や環境は整ってきているので、校内で全教職員が利用に関して理解を深めていくことはもちろんであるが、6学年の児童を中心に自分達で情報モラルへの理解を深め、児童自らが、学校の利用上の約束を発信する場面を設定することを通して、児童の情報モラルへの意識向上を目指すことにした。

2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

研究については、6学年が主となって進めた。GIGAスクール構想に伴い、総合的な学習の時間において、全校生に向けて「ネットから身を守るための猪小っ子の約束」を発信することを課題に設定して学習を進めていくことにした。

(1) 意識調査（5月14日）

学習の始まりとして、保護者・児童のネットに関する意識調査を実施し、ネットと関わる上での危険性や問題点の発見。

(2) 調べ学習（6月～）

総合的な学習の時間において「情報モラル」に関する自分達の課題を見つけ、グループごとに調べ学習を実施。

(3) 授業「つながるNHKメディア・リテラシー教室」（9月17日）

※ 別紙実施計画参照

(4) 授業「校内学習発表会に向けての発表リハーサル」（10月21日）

※ 本年度校内学習発表会が中止となったため、LINE株式会社「SNSノート」を基にした情報モラルに関する授業を実施（別紙指導実施計画および指導案参照）

(5) 地区別研究協議会において発表（11月8日）

(6) 校内学習発表会にて6年生による学習発表（10月30日）

※ 本年度校内学習発表会が中止となったため、12月3日授業参観において保護者に向けて「ネットから身を守るための猪小っ子の約束」を発信。

Ⅱ 研究の実際について

1 授業「つながるNHKメディア・リテラシー教室」(9月17日)

NHKとの連携により「つながるNHKメディア・リテラシー教室」に参加し、「正確な情報を取捨選択する力」と「メディアのあり方を考えて発信できる力」を身に付けるために、NHKのスタジオと他県の小学校2校とをオンラインでつなぎながら学習を進めた。

活字で読んだり人から聞いたりするのではなく、自分達で考え、感じながら情報のとらえ方、発信の仕方、情報との付き合い方を学ぶことのできる授業となった。

事前の課題も設定されていたため、子どもたちが様々な考えをもって授業に臨み、他校の子どもたちとの交流を通して、「様々な見方、とらえ方がある」ことを肌で感じる事ができた。

子どもたちは「画像を見る時は意図を読み取ることが必要だと思った。」「受け手と送り手どちらの立場になった時でも、気を付けなければならないことがある。」「今まで、情報を受けるときは本当かどうか考えていましたが、自分が情報を送るときも、気を付けることが大切だと思いました。」といった感想をもち、今後の情報との向き合い方について考えることができた。



2 授業「自分と相手の違い」(10月21日)



年度始めの計画では、総合的な学習の時間において、子どもたちが調べ、「ネットから身を守るための猪小っ子の約束」を考えて、校内学習発表会において発信する予定であったが、校内学習発表会が中止となった。そのため、子どもたちに一番身近で、一番起こりうる危険がある「ネットいじめ」に注目した。

自分のとらえ方と相手のとらえ方が違うということを知り、情報と向き合っていく必要があることを感じてほしいと思い、LINE株式会社「SNSノート」を基にした情報モラルに関する授業を実施した。

子どもたちは「自分が気にしないで言ったりやったりしたことでも相手を傷つけてしまうことがある。」「人によっていやなこと・気になることは違うので気を付けなければならない。」ことに気づき、「発信者」「受信者」として情報の受け取り方を考える機会になった。



3 授業参観「ネットから身を守るための猪小っ子の約束」を発信（12月3日）



本年度校内学習発表会が中止となったため、授業参観において、総合的な学習の時間で調べ、考え、まとめた「ネットから身を守るための猪小っ子の約束」を保護者に向けて発信した。

様々な学習を通して、情報社会に潜む様々な危険をしっかりと理解し、実感を伴いながら、自分たちの言葉で、より具体的で現実的な約束を設定することができた。

特に、「ネット依存」の危険性について考える場面では、意識調査などから、自分たちが感じる「使いすぎの時間」と保護者の感じる「使いすぎの時間」のギャップを知った上で、自分たちが守れる約束にしなければ意味がないことに気付くことができた。そこで生まれた子どもたちの合い言葉が「みんなで守ろう、みんなを守ろう」である。

授業参観の機会に、保護者に向けて発信をしたことで、家庭への意識喚起にもつながった。情報モラルの問題は家庭との連携をなくしては実践できない面が大きいので、今後も機会を捉えて学校から発信し、共に考えていく必要があると感じた。

さらに副次的な成果として発表のためにプレゼンテーションソフトを活用したことで、その操作に慣れ、様々な学習の場面で「プレゼンテーションで説明していいですか？」と積極的に活用しようとする姿が見られるようになった。

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 総合的な学習の時間で、自分たちで課題を見つけ出して、「ネット利用のルール」作りに取り組んだことで、子どもたち一人一人が自分の問題として「情報モラル」について考えることができた。
- NHKメディア・リテラシー教室に参加したことで、全国の小学校と交流をしながら、情報との向き合い方について話し合いを深めることができた。
- 情報のやりとりには相手がいる、様々な立場や、感じ方、考え方の違いがあることを、道徳の時間とも関連を図りながら、様々な機会に考え直すことができた。

2 課題

- 本年度は6年生が中心となって実践を行ってきたが、今後、全校に広めていく必要がある。その際、各学年の発達段階に応じたカリキュラムも検討していかなくてはならない。
- 学年通信や、学校だより、学校HPなどで周知を図ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者を巻き込んだ活動に広げることが難しかった。家庭と連携して考えていく必要がある。
- 一部の職員のみが研修を進めるのではなく、各種研修などを通して、全職員が理解を深められるような指導体制をさらに整えていきたい。